

(様式2)

令和2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102481		
法人名	社会福祉法人 からし種の家		
事業所名	高齢者グループホームからし種の家		
所在地	新潟県新潟市西区小針西1-4-22		
自己評価作成日	2021年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2003年(平成15年)に介護保険施設となって16年、住宅地のなかに一般の家庭と同じように建っていて、地域にとけこむような形で普通に暮らしています。ホーム内では入居者お一人お一人のその人らしい暮らしが継続していけるよう個々にあった自立支援に取り組んでいます。そのために入居者の皆様とご家族、職員の関係づくりを大切にしています。入居者とその家族との信頼関係を築くことで入居者の方が日々の暮らしの中で自然に思いを職員に話せ、職員はその思いや気づきを見逃さず自己決定に繋げていけるような雰囲気作りを力を入れつなげています。地域の自治会に加入し、回覧板やゴミかごの設置、一斉清掃時には入居者職員も参加し、近隣の方と顔なじみの関係ができています。火災等災害訓練の協力体制についても自治会長様や近所の方が連絡網のなかに加わって下さり、ホームの避難訓練にも積極的に参加してくださっています。食事作りや入居者の方と一緒にお茶を飲まれたり、寄り添ってくださるボランティアさんがいらっしゃいます。また、退居された方のご家族からボランティアに協力したい話を頂いたり地域の方々、ボランティアの皆さん、ご家族に見守られながら穏やかに暮らしています。職員間でも入居者へのより良いケアや変化について情報交換や相談がしやすい風通しの良い雰囲気が作られています。「その人らしく」という基本理念を大切にし職員全体が共通の目的に向かってチームケアができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新潟市西区の住宅街にあり、建物の外観は周囲の家並みに自然に溶け込んでいます。大きな看板もなくエントランスに置かれたプランターの花が近所の方の目を和ませています。事業所内は、花で飾られた共有空間、記念樹が植えられている中庭、明るく個性を活かした居室などで家庭的な造りとなっている。

介護保険制度が始まる前から、身寄りのない一人の高齢者の居場所として緊急避難的に現在の場所で宅老所を始めたのがはじまりで、その後社会福祉法人となって認知所の方が最後まで自分らしく生活できるグループホームとして開設され、現在に至っています。

地域の一員として自治会に加入し、日常のゴミ出しやプランターの水やり、散歩などの際に地域の方とあいさつを交わす関係が構築されている。2020年度は地域の方も楽しみにしていた事業所で行う演奏会などの催しは中止となったが、長年に渡って培われた地域の方達との関係性の中で利用者は穏やかな日々を過ごしている。

利用者一人ひとりの「その人らしい生活」を支え個を尊重するという理念を職員は常に念頭に置き、利用者一人ひとりと密接に関わり合いながら状況を共有して支援している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念並びに基本方針を職員がいつでも確認できる場所(リビング)に掲げ見える化につとめている。「本人の望む暮らし」にむけた法人研修や職員会議等で理念や指針を共有し、全職員は認知症ケアと向き合っている。	地域とかかわり合いながら、その人らしい生活を支援することを開設時からの理念として、職員のケアのより所としている。理念をリビングに掲示し、職員が日々のケアでも理念を意識できるようにしている。年度はじめの職員会議において理念に基づいて重点目標を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在新型コロナウイルスの影響で地域の方をホームにお招きできない状態が続いている。その中でもホーム周辺の散歩等行った際には近隣の方と挨拶し顔を合わせ地域の中に溶け込めるように実践している。ゴミかごの設置、掃除を行っている。	開設時から地域との交流に努めており、利用者、事業所ともに地域の一員として受け入れられている。自治会に加入し、回覧板を回したり、ごみ籠の掃除当番などを住民として行っている。2020年度はコロナ禍により積極的な交流はできないが、散歩、花壇の水やりの際などに自然な形で交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にあつて制限された開催となったが地域住民作品展と福祉バザーに当ホームも参加、貢献した。また、年に二度、事業所で機関誌を発行し理念や実際に行っている取り組み等情報をボランティア等の支援者にお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は運営推進会議で得た情報や委員からのアドバイスを職員会議で伝え共有し、サービス向上に繋げている。特にコロナ対策における情報・意見を共有することができた。	運営推進会議のメンバーは、家族代表、自治会長、地域住民代表、地域包括支援センター職員で、2か月に1度開催している。書面会議の際は事前に資料を送付して意見をいただいている。2020年度は特にコロナ感染症に関する情報を共有することができた。	事業所と地域住民の関係が構築されているが、さらに利用者が地域で生活することを支援するために運営推進会議の更なる活用を期待したい。委員に利用者代表を加えて会議の中でも具体的な要望を聴いたり、他の事業所の管理者や民生委員等の参加を得ることで地域のニーズを把握し、より具体的な話し合いが持てる会議となることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回に一回運営推進会議を開催し、自治会長、地域住民、入居者様のご家族、地域包括の方々に事業所の現状をお伝えしご意見、ご指導を頂いている。市の担当者とも相談や指導を仰ぐ等アドバイスをいただいている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員として会議に参加していることから、事業所の課題等について随時相談したり助言を受けている。市主催の研修会には管理者が参加し、職員に伝達している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回の身体拘束委員会開催。内部研修で身体拘束になりえる具体的な行為について再認識している。毎月の職員会議で思い当たることはないか確認している。夜間以外は施錠していない。	「身体拘束委員会」を定期的開催し、研修の企画、実施をしており、2020年度は映像を使用して実践に即した内容とした。研修は法人の他施設と合同で開催し、スピーチロックなど具体的な事項を検討した。事前に職員にアンケートを取り、対応に困っている利用者の支援についてロールプレイを行って学びを深めている。地域住民の協力もあって、玄関の施錠はしていない。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての内部研修に参加し、ユマニチュードや事例研究について職員が具体的に学ぶ機会をもった。毎月の職員会議や日々のケアの中でも虐待に繋がる場面、対応はないか職員間で話し合っている。	身体拘束の研修と同時に虐待防止に関しても研修を行い、職員会議においても確認をしている。職員同士も話し合いができる関係性がつくられている。利用者との関係にも配慮して情報を共有しながら勤務交代も適宜できるようにして職員がストレスを抱え込まないようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方の入所に備え、また、新しい職員も増えたこともあり、3月に権利擁護に関する全体研修が予定されている。親子の高齢化が進んでいるこうした課題は全職員が学ぶ必要性を覚えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居・退居の際はご家族に十分に説明し理解、納得して頂いている。改定時は文章により同意を得ている。解約時については、ご本人やご家族のご理解が得られるまで相談にのり対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時にはご本人の様子や変化をお伝えし、その都度ご意見、要望をお聞きし対応している。運営推進会議にご家族代表として出席していただき意見を頂いている。	利用者の意見や要望については、本人に寄り添い丁寧に話を聞くことで引き出すようにしている。家族には面会時や介護計画作成時に、何でも気軽に話してほしいと伝えている。ケア内容に関する家族の要望に応じて、運動を生活に取り入れたり、食事の改善などに取り組んできた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや職員会議、その他日常的に意見や提案を出し合える場や機会を設けている。出た内容をもとに、皆で検討し運営に反映させている。今年は特にお風呂場やリビング、台所等の工事につながった。	職員会議を毎月1回開催しており、日々のミーティングにおいても、職員の意見、提案を聴いている。法人代表者は事業所において職員との対話の中で意見や要望を聴取しており、年に1回管理者が個人面談を行っている。2020年度は、職員の意見を反映して、事業所内部の改修を実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ対策や職員との面談等の話し合いを積極的にもって就業環境整備にしている。研修や資格取得しやすい職場環境・条件の整備や職員の資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に行っている。また、法人内研修では現在、実際にホームで直面しているケアの課題について別事業所の職員とグループワークし対応の仕方などの意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス対策研修ではZOOM機能を用いて他の福祉施設現場で働く同業者の新型コロナウイルス拡大防止対策を聞き、自施設でも行える対策を検討している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との信頼関係を築くことで、ご本人が不安な事や訴えを職員に話しやすい環境を作ると同時に日々の介護の中でご利用者一人一人の変化を見逃さないように努めている。また、ご本人やご家族から今までの生活習慣をお聞きし少しでも安心して生活できるよう環境を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の思いを受け止め、対応の仕方や環境作りについて職員間で話し合っている。入居後はご家族との電話、面会時にご本人がどのように生活しているかをお伝えし、安心していただけるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の希望やご家族の意向を把握し見極め、ホームでできること、できないことをお伝えしている。必要に応じて他のサービスの情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験をお聞きし、できる限り変わらない生活リズムで日々を過ごしていただく。また得意な分野は施設でも役立てていただくなど、その人の持つ力を暮らしの中で発揮していただく。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあって臨時面会室や時間の制限がある中で、できるかぎりご本人の変化や思い、必要な日用品などの購入をご家族にお伝えしている。受診を家族にお願いし本人を支える関係を築いている。電話での対話につなげている。	家族へは、事業所で発行する便りや法人の機関誌を送付して利用者の生活の様子を伝えており、便りは家族も楽しみに読んでいただくと反応がある。2020年度は面会に制限があったが、臨時の面会室を設け、できる限り面会できる環境を作った。受診の際や必要な日用品を持参いただいた際に話をしたり、電話での対話に努めた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあつては上記同様、友人、知人の方関係が途切れないように電話での対話につなげるよう努めている。また、機関誌やクリスマスカードなどを送っている。	入居前にこれまでのなじみの生活を把握している。入居後の生活が長い利用者も多く、法人で行うクリスマス会、バザーへの参加を楽しみにして訪れるボランティアとなじみの関係を築き交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見守り、必要に応じては座席の工夫などお一人お一人が過ごしやすい環境作りに努めている。また、参加型のレクリエーションや体操を日々の活動に取り入れ、居心地の良い雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族からボランティア参加の希望があったりとサービス利用が終了した後の関係性も大切にしている。新たな施設に入居になった方には情報提供を行いご本人、ご家族の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自室で過ごす事が好きな方、共用リビングでTVを観たり他入居の方や職員との会話を楽しまれる方、それぞれの生活リズムを大切にしながら必要に応じて日々の会話の中から意向を把握したり表情や態度からご本人の気持ちを汲み取っている。	全職員が利用者一人ひとりに向き合い、毎日の暮らしの中で、会話や表情、仕草などを通して利用者の意向を把握している。利用者の小さな変化や新たな気づきを、申し送りや記録で共有を図っている。令和2年より記録のシステムを変更し、タブレットで記録できるようにした。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供や事前面談を通して、ご本人、ご家族から聞き取った情報を職員間で共有しこれまで利用していたサービス事業所、生活歴を基にご本人にできる限り馴染みのある生活環境を整える。	入居前に自宅訪問をし、利用者、家族から生活歴や、大切にしていたこと、習慣について聞き取り、自宅や周辺環境についてもアセスメントして記録している。聞き取った情報を、シートにまとめケース会議で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとりひとりの変化や訴えや職員の気づきを日々の申し送りやケース記録で伝達、職員会議等によって常に情報共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者それぞれの担当者がモニタリングをし、他の職員の意見を聞きながら、課題やケアについて、本人、家族、必要な関係者と話し合っている。困難な場合はご家族にご本人の意向を伝え、ご家族の意見を頂いて介護計画を作成している。	事前面接のアセスメントと利用者・家族の暮らしに対する思いをもとに暫定計画を作成し、入居後の状況を確認して介護計画を作成している。モニタリングは短期目標の期間に添って担当職員が実施し、介護計画の更新や見直しに反映させている。月に1回ケア会議を実施して全職員で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を基に毎日申し送りを行い、様子やケアの内容の確認、気づきや工夫を記録し情報共有を行っている。今年度から介護ソフトを利用することで色分け等により情報の共有化がしやすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が対応できない時はホームで通院に付き添うことがある。往診や受診の付き添いサービス、福祉タクシーを利用することもすすめている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり、地域資源との協働は限定された。しかし、コロナ禍での有明地区作品展・からし種の会の小規模福祉バザーでは時間を別にするなど協働して開催した。利用者も全員ではなかったが参加し楽しむことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。退院後の往診体制などについてもご家族の意向を尊重している。	入居以前からのかかりつけ医を継続していただいている。遠方で受診できない場合には近隣の医療機関に繋げる支援をしている。退院後の往診体制等についてもご家族の意向を尊重している。	入居時に説明を行い、これまでのかかりつけ医を継続できるよう支援している。受診は家族の付き添いを原則としているが、緊急時や医師への説明が必要な時は職員が付き添っている。家族の状況の変化で往診が可能な協力医に変更する利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の看護師による健康チェック時にご本人の状態について相談している。また少しの変化、異常がみられ、判断に困る時は夜間でも看護師に連絡し判断・助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は医療機関への情報提供を行い、スムーズに医療が受けられるよう支援している。退院の際にはご家族、介護支援専門員、看護師、管理者等が担当者会議に参加を通して不安なく退院への受け入れができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化および看取りの指針について説明している。ご利用者の重度化や終末期等については状態に応じてご家族との意向の確認を行い支援内容の共有を図っている。ご家族、主治医、看護師と連携を図って支援している。	重度化や終末期の対応について文書で指針が示されており、入居時に利用者・家族に説明している。利用者の状態の変化に伴い、早めに関係者で話し合っただけ対応している。終末期の医療行為についての意向など早い段階で話し合っただけ家族の理解を得られるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローチャートを見やすい場所に掲示し、職員全体で周知している。またAED等を整備している。職員が消防署主催の救命講習を受けている。看護師から急変対応研修を実施している。	「応急手当」「AEDの操作」「感染症予防・対策」等の研修は定期的実施しており、看護師による、骨折、誤嚥等の状態変化時の対応についても事業所内で研修が行われている。緊急時対応のフローチャートは職員が確認できるよう、台所に貼ってある。利用者の無断外出に備え、地域住民の協力を得て通報訓練を行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回防災訓練を実施している。また夜間を想定した避難訓練として夜勤専門職員にも参加してもらっている。自動通報装置に近所の方々の連絡先が登録されており、初期対応の協力体制ができています。また断水に備え風呂水を溜めて備えている。コロナ対策を実施している。	食品、水等の備蓄、浴槽に水をためておくなど有事に備えた取り組みをしている。年2回、火災・地震を想定した防災訓練を実施し、地域防災訓練に参加している。訓練には、夜間専門の職員3名も参加しているほか、地域住民の参加も得られている。	火災、地震、水害など想定される災害の際は職員のみでは対応できないこともある。そうした有事に備えて利用者の安全確保のために、地域の避難所への誘導、夜間想定避難訓練などに地域住民を含めた協力体制をつくることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけの対応を心掛けている。職員会議や申し送りの際に話し合う時も「Aさん」等アルファベットを用いてプライバシーを損ねないように配慮している。ユマニチュードの研修ははじめ一人一人を尊重した対応に努めている。	接遇研修を毎年実施し、職員が自己の関わりを振り返る機会を設けている。職員会議や日々の申し送りの際に、職員の言葉や関わり方について互いに注意しあっている。職員と利用者の距離が近いだけに、プライバシーに配慮してミーティングを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム内で自由に話しかけができる雰囲気大切に、ご本人の思いや気持ちがあまく引き出せるよう取り組んでいる。その人に応じて自己決定がしやすい言葉かけ等に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事に時間のかかる方にはご本人のペースでゆっくり召し上がっていただけるように見守っている。一日の流れは決まっているが個々の過ごし方に関してはご本人の意向に可能な限り寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品をご本人で管理されている方や入浴等での更衣時は可能な方には着替えをご本人に選んでいただいている。また朝の洗顔やヘアセット等身だしなみを整える支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ旬を味わっていただく。食材の下ごしらえ、盛り付け、食器洗い等を一緒にやっている。	利用者も食事作りに参加しており、野菜の下準備、盛り付け、配膳下膳を行っている。料理本を台所に置いて、利用者も一緒に見ながら好きな献立を聞いて、職員が季節にあった食事を提供している。誕生日には本人が希望した食事にし喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アレルギー、糖質に気をつけ食事を提供している。水分摂取に関してはご本人が積極的に摂取していただけるよう、時間やご本人の様子を見ながら声かけの工夫を職員一人ひとりが見極め支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアを行える方には声かけのみで確認している。介助が必要な方には側に付き添い一つ一つの手順を声かけし自力で行っていただいている。拒否があった際は時間を置いて再度お誘いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを日々の排泄チェック表を基に把握し、変化に応じてトイレにお誘いする時間を調整している。現在オムツを使用している方はいない。	利用者の状態に合わせた排泄介助や誘導を行い、トイレで排泄することを支援している。排泄チェック表の活用により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや支援を行うことでおむつを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維が豊富な食材を取り入れている。運動の機会を作ったり自家製のヨーグルトを毎日提供し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人から拒否のある場合は時間を調整したり翌日にお誘いするなど、できる限りご本人のペースで入浴していただいている。「からすの行水」「湯船にゆっくり」とそれぞれ気持ちよく入浴していただけるよう好みをお聞きしながら入浴を楽しんでいただいている。	入浴は週3回を基本としており、入浴を職員と利用者が1対1で関わり、会話ができる大切な時間としてとらえている。好みのシャンプーを使い、個々のペースで入浴できるよう支援している。季節に合った変わり湯も行ってくつろぎの時間としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間はできる限りご本人の生活リズムに合わせている。夕方になると気分が沈む方もいるのでお茶をお出したり、寄り添い会話を楽しむことで徐々に安心していただき気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セット時は必ずWチェックを行っている。薬の変更がある場合は申し送り、記録に薬の目的や副作用、用法について説明し職員全体が共有している。必要に応じて看護師や医師に相談し指示をいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	TV鑑賞が好きな方には番組をチェックし、時間が遅い場合は録画をして翌日の楽しみを持っていただいている。また、家事、散歩、歌などご本人の得意な事楽しめるものを日々の中で継続していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ禍の影響で外出の機会は減っている。その中でもホーム周辺の散歩、リビングの窓を開けて外の空気、季節を感じ取っていただいている。	コロナ禍のため外出制限があるが、事業所周辺を散歩したり、花壇の水やりに外へ出ている。家を見たいという利用者の希望に応じて、自宅近くまでドライブをすることもある。コロナ禍以前は季節の外出行事を行っていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に金銭管理の方法を選択していただいている。財布を持ち自己管理している方もいるがホームで預かり金として管理している方もいる。お金が手元に無いことに不安を持った方にはきちんと説明し安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご本人で管理している方のいる。充電や操作方法がわからない時は職員が手伝わさせていただき、ご家族いつでも連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保つことを心がけている。また季節の花やディスプレイを作ったり入居者の方々が描いた塗り絵を掲示したりと生活感のある雰囲気を作っている。乾燥が強い時は加湿器だけでなく濡れタオルをかけるなどして加湿に努めている。またには手作りの大きなカレンダーがあり、季節がわかり居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	玄関や共有スペースは家庭的な作りで生花やドライフラワーが飾られている。利用者が好きなスペースで過ごすことができるように、共有スペースのほかに随所にソファが設置されており、記念樹が植えられた中庭を眺めながらゆったりと過ごすことができるようになっていく。建物内部は適切な温度・湿度調整が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなど共有スペースの他に二階の廊下にソファと椅子を設置し、居室以外にも一人で休まれたり、入居者様同士でゆっくり過ごせる場を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできる限りご本人の馴染みの物、家具をそのままお持ち頂き、慣れた環境に近づけるようご本人、ご家族と話し合っている。入居後もご本人の気持ち、状態に合わせて居室の模様替えを行っている。	一人ひとりの希望に合わせた居室作りを家族の協力を得て支援している。写真や以前から使っていた家具など思い出の物品が持ち込まれている。他の入居者と居室で過ごしたい方には、客用の座布団なども用意されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレの案内札を作成し場所をわかりやすくしている。階段を使用される方には手すりを使わせていただくことで安全に移動していただいている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				